

## 都市の犯罪 Revisited

### 都市社会の捉え方

近代の都市のはじまり(18 世紀～19 世紀、西欧)

都市に特有の問題の顕在化

病気→ごみ処理、給排水衛生設備→スラム→犯罪、教育施設、経済問題

居住環境の管理＝「都市政策」:公共事業と都市の密接不可分な関係→「福祉国家」

- 都市＝
- 1 生態学的なコミュニティ(近隣の生活社会)としての都市  
都市の同心円理論やスラムの発生についての研究。(初期シカゴ学派)
  - 2 社会の規模や複雑性が社会組織に与える影響＝「文化形式としての都市」  
アーバニズム(文化)をどう捉えるかという研究。移民の研究、社会解体論など。
  - 3 資源配分システムから見た都市(英国の地方自治体をモデルとして・60 年代)  
住宅の配分から「住宅階級」の分析へ→「福祉国家」分析へ(都市管理者論)  
(3は1、2で提起された空間利用形態や都市文化を基礎とした都市の捉え方が  
現実の政策にどのように反映したかを基本とする分析手法。近代都市計画の基礎。)
  - 4 都市における大規模公共資源の消費形態から都市社会を批判する運動  
新都市社会学→(労働力再生産システムへの反逆)「都市社会運動」の研究  
(4は3で進められた資源配分がいわゆる「都市の危機」を生んだことから、  
発展した理論。都市財政の破綻を説明し、その乗り越えのために「都市社会  
運動」を積極的に位置づける。“反”都市計画。)

例としての「都市における女性問題」

従来の都市社会学での女性の捉え方＝都市に「いる」だけの存在

家事労働に従事することで、都市の労働力再生産にシステム的にとり込まれる。

家庭内での女性の役割＝公共サービス機関への連絡係、関係の維持者

従来の女性解放論(私的領域から公的領域への進出)を克服し、より多面的な  
女性像を紡ぎ出す。「都市社会運動の担い手としての女性」。

例:保育園問題、福祉施設問題、学校問題での女性の中心的役割

住宅供給運動、生協運動等での女性のリーダーシップ。

## グローバル都市の各種の問題を空間的に解決するための前提

公共サービス機能の位置づけと効果、そのための資源配分の効率分析→都市の危機例として、絶えざる犯罪対策に疲弊した米国各都市等での財政問題があげられる。

都市の「病理」解決のために考えられた各種対策の二つの流れ

### A 原因探求→除去アプローチ

犯罪原因論の隆盛。原因に対する対策としてのアフターケアの戦略。  
最も大規模な例として、米国のシカゴ計画や MFY (青少年動員運動) があげられる。  
青少年層に対して非行原因の除去、カウンセリング等のソーシャルワークの両方を  
公共サービスとして同時に提供→新たな社会問題の創出を未然に防ごうとする。  
都市財政の破綻→府中計画等日本でのパイロットプロジェクトの挫折

### B 回避アプローチ

政策的な可能性を考慮しつつ、可能な範囲での回避策を中心とする。  
原因除去は考えない(一定量の病理現象の存在を是認しそれをコントロールする。)  
コストベネフィット(最小限の投資で最大の効果を得る)(資源の効率的配分)  
現象そのものではなく、住民の感覚を優先(「安心感」中心主義)  
政策的な明確性を指向する(個別ではなく、ハード面での大量アプローチ)

回避アプローチが持つマイナス面

一部の有力市民の感覚に依拠→中流層の安心感でしかない  
犯罪現象の偏りを加速(非行副次文化の再強化)→転移(ディスプレイスメント)  
都市財政の拡大につながる→公共性よりも利益主義に走る(前ページの3から4)  
現実的に、効果のある施策が果たして存在するのか?  
対象とされる病理現象が限定されている。  
通常の一一般の市民生活に対する「監視」の増大→監視社会化  
「割に合うのか? 誰の割に合うのか?」

## 具体的な環境設計の指針

ターゲットに接近するためのハードルを高くする(ターゲットハードニング、設計)  
堅牢なセキュリティ。電柱配管等、足場の除去、歩車道の区分。  
「自然な監視者」の強化  
場所的な視認性を高める(隅切り、照明政策、区画整理、塀住居間の距離)  
警備員の制服化、警備システムの明示  
逃走経路の遮断(道路対策=都市内部の幹線路の曲線化、袋小路)  
計画的な生活空間の配置(スプロール現象による虫食いの回避)

都市型社会のグローバル化による新たな段階への移行:

ビジネスのグローバル化:都市の大規模公共資源を調達する企業のグローバル展開  
ビジネス倫理/法的規制としての CSR (Corporate Social Responsibility)  
国連指導原則および OECD ガイドラインなどの企業活動ガイドライン  
→武器調達、強制労働等、不正調達、腐敗

インターネットの発達:世界の「情報による距離」→国境を超えたサイバー空間の登場  
Viewer (Synoptic=共観) Society と Virtual Community

↓

サイバー空間の犯罪

捜査管轄、司法管轄の変化

国境概念の曖昧化 (一方で、グローバル基準は未策定=覇権争い)

技術革新と犯罪捜査(テクノロジー中心主義への傾斜)

バイオメトリクスとプライバシー(データ収集)

社会的必要(既得権益)によりサイバー犯罪が定義される→知的財産